

公益社団法人日本動物学会 2022 年度事業報告

1. 社員総会

定時社員総会

2022 年 9 月 9 日（金）早稲田大学早稲田キャンパス 大隈講堂

【承認】第一号議案 2021 年度事業報告（案）について

【承認】第二号議案 2021 年度決算書（案）について

【承認】第三号議案 2022～2023 年度新理事及び監事の承認について

【不成立】第四号議案 理事報酬の支払いについて

定款変更に伴う定員数に満たなかったため

2. 学術集会の開催

2022 年 9 月 8 日（木）から 10 日（土）まで、第 93 回日本動物学会早稲田大会を、早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区）で開催した。参加登録数は、8 月 20 日（土）の事前登録〆切の時点で、874 名（一般会員 381 名、学生会員 299 名、非会員招待者 38 名、一般非会員 21 名、学生非会員 135 名）。大会開催期間中に 234 名（会員 33 名、非会員を含む学生 187 名、非会員 14 名）の参加登録があった。一般参加者数は大会側の想定よりも若干少なかったものの、学生の参加者は当初予想の 2 倍以上の 600 名程になり、合計 1,108 名の参加者を得て、2 年ぶりに盛大な対面交流が実現した。

公募発表

- ・一般発表（430 口演、数件の発表取り下げを含む）
- ・シンポジウム 17 件（83 口演）
- ・関連集会・サテライトシンポジウム 6 件（19 口演および 2 企画）
- ・高校生ポスター発表 71 演題
- ・動物学ひろば 11 件（三崎海洋生物，ホヤ，マミズクラゲ，クシクラゲ，ゼブラフィッシュ，プラナリア，ウニとナメクジウオ，ツメガエルとイベリアトゲイモリ，ソライロラップムシ，チンアナゴ，ハイギョ[中止]）

学会企画・行事

- ・公益社団法人日本動物学会理事会・各種委員会
- ・本部企画ナリシゲ・シンポジウム
大隅良典先生特別講演および 4 口演
- ・動物学国際交流シンポジウム（6 口演）
- ・学会賞等授賞式・奨励賞，学会賞受賞者講演（4 口演）
- ・学会年次総会
- ・市民公開講演会「環境と教育の未来～動物学からのメッセージ」（4 口演）

大会企画

- ・動物学会×NHK ダーウィンが来た！コラボ企画（2 件）
動物学映像化よるず相談所
自然番組制作スタッフ講演会（1 口演）

（公益 1）

3. 学術誌の刊行

Zoological Science (ZS) の刊行 (39 巻 4 号 ~ 第 40 巻 3 号) 558 頁。ZS の編集は、編集委員会委員が行った。編集委員会は年 1 回開催。

Open Access ジャーナル Zoological Letters を出版した。OA ジャーナルのため、巻号はない。2022 年度の出版論文数は 19 論文である。

(公益 1)

4. Web による広報活動の促進とニュースの発行

web サイトを利用して、大学等研究機関による職員募集、科学者によるセミナー、シンポジウムの開催通知、動物学研究トピックスなどを随時掲載した。ニュースを月 1 回発行。

5. データベース構築(ZooDiversity Web)

論文検索・閲覧ウェブサイト ZooDiversity Web (ZDW) について、対面会議 (早稲田大会時) やメール会議を行い、以下の問題について審議・対応を行った。データベースや書誌情報の作成作業については嶋田会員に委託し、検索システムを担当するダイナックス社との折衝は学会事務局の永井氏が対応した。

(公益 1)

6. 研究の表彰

・日本動物学会賞 (公益 1)

会員を対象とし、動物学研究に新たな知見をもたらした研究に授与。

学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、日本動物学会賞の受賞者を決定した。

【2022 年度 受賞者 2 名】

日下部岳広 (くさかべ たけひろ) (甲南大学理工学部・教授)

研究テーマ「感覚器・神経系を中心とした脊索動物の発生・生理・進化に関する研究」

浮穴和義 (うけな かずよし) (広島大学大学院統合生命科学研究科・教授)

研究テーマ「新規神経ペプチドの同定と生理機能に関する研究」

・日本動物学会奨励賞 (公益 1)

会員を対象とし、今後の動物学研究を推進することが期待される若手研究者に授与。

学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、日本動物学会奨励賞の受賞者を決定した。

【2022 年度 受賞者 2 名】

後藤寛貴 (ごとう ひろき) (静岡大学理学部・助教)

研究テーマ「甲虫類における極端な性的二型発現の分子発生の研究」

安岡有理 (やすおか ゆうり) (理化学研究所生命医科学研究センター・研究員)
研究テーマ「動物胚初期発生における遺伝子制御ネットワークとその進化に関する研究」

・ Zoological Science Award (公益 1)

本学会の会員・非会員および国籍を問わず、前年に出版された Zoological Science 掲載論文の中から、各分野において、優秀でインパクトのある論文の著者に授与。編集委員により審議で授与される。Zoological Science 編集委員会による選考と理事会の議を経て、Zoological Science Award の受賞論文を決定した。

【2022 年度 受賞論文 5 件】

Analysis of the Mitochondrial Genomes of Japanese Wolf Specimens in the Siebold Collection, Leiden
Shuichi Matsumura, Yohey Terai, Hitomi Hongo, Naotaka Ishiguro
Zoological Science 38 (1): 60-66. 分野 Genetics

Developmental Process of a Heterozooid: Avicularium Formation in a Bryozoan, *Bugulina californica*
Haruka Yamaguchi, Masato Hirose, Mayuko Nakamura, Sumio Udagawa, Kohei Oguchi, Junpei Shinji,
Hisanori Kohtsuka, Toru Miura
Zoological Science 38 (3): 203-212. 分野 Diversity and Evolution

Programmed Scale Detachment in the Wing of the Pellucid Hawk Moth, *Cephonodes hylas*: Novel Scale
Morphology, Scale Detachment Mechanism, and Wing Transparency
Akihiro Yoshida, Yoshiomi Kato, Hironobu Takahashi, Ryuji Kodama
Zoological Science 38 (5), 427-435. 分野 Physiology

Dynamics of Spermatogenesis and Change in Testicular Morphology under ‘Mating’ and ‘Non-Mating’
Conditions in Medaka (*Oryzias latipes*)
Ruka Sumita, Toshiya Nishimura, Minoru Tanaka
Zoological Science 38 (5), 436-443. 分野 Reproductive Biology

Evaluation of Visual and Tactile Perception by Plain-Body Octopus (*Callistoctopus aspilosomatis*) of Prey-
Like Objects
Sumire Kawashima, Yuzuru Ikeda
Zoological Science 38 (6): 495-505. 分野 Behavioral Biology

・ 日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞 (公益 1)

本学会の会員・非会員を問わず、安定した身分で研究を続けることが困難であるが、強い意志と高い志を持って研究に意欲的に取り組もうとする女性研究者に授与。

OM 賞選考委員会の審査と理事会の議を経て、日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞受賞者を決定した。

【2022 年度 受賞者 2 名】

堀沙耶香（ほり さやか）東京女子医科大学 統合教育学修センター 基礎科学・任期付き講師
「逃避行動最適化の性差を生み出す原型シナプス回路モデルの構築」

池上花奈（いけがみ かな）東京大学 理学系研究科・日本学術振興会 特別研究員 PD
「体成長を感知し性成熟を促す魚類神経メカニズムの解明」

・成茂動物科学振興賞（公益 1）

動物学の全分野でユニークな研究を展開する会員を振興賞の候補者とする。
学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、成茂動物科学振興賞の受賞者を決定した。

【2022 年度 受賞者 1 名】

奥出絃太（おくで げんた）(国立遺伝学研究所・日本学術振興会特別研究員 (PD))
研究テーマ「トンボの変態を制御する分子機構の解明」

・国際会議発表支援川口賞（公益 1）

海外国際会議に出席する若手研究者を対象に授与。
学会賞等選考委員会と理事会の審査を経て、国際会議発表支援川口賞の受賞者を決定した。

【2022 年度 受賞者 2 名】

金原僚亮 出席国際学会：Cephalopod International Advisory Council 2022（ポルトガル）
吉村太郎 出席国際学会：World Congress of Malacology 2022（ドイツ）

・動物学教育賞（公益 1）

本学会の会員・非会員および国籍を問わず活発な啓蒙活動等により動物学の社会への普及に著しく貢献した個人または団体を対象とする。
学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、動物学教育賞の受賞者を決定した。

【2022 年度 受賞者 1 名】

齊藤準（さいとう ひとし）(京都工芸繊維大学・准教授)
授賞テーマ「野生絹糸昆虫を活用した動物学の普及活動ならびに環境教育」

・茗原真路子研究奨励助成（公益 1）

本学会の会員・非会員を問わず、基礎生物学（動物学）の研究に従事し、良い基礎研究であるが研究費に必ずしも恵まれない方への研究費の支援を行うことを目的とする。

茗原眞路子研究奨励助成選考委員会による審査と理事会の議を経て、茗原眞路子研究奨励助成の受給者を決定した。

【2022年度 採択者 3名】

藤岡春菜（ふじおか はるな）岡山大学大学院環境生命科学研究科・助教

「アリはどうやって水を運ぶのか？効率的な液体輸送とその進化の解明」

清水啓介（しみず けいすけ）東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻・特任助教

「腕足動物におけるキチンを介した貝殻形成の分子機構」

武下愛（たけした あい）近畿大学医学部解剖学教室・助教

「胎盤特異的な概日リズム欠如が胎盤機能に与える影響を解明する」

7. 動物学の普及活動、生物科学学会連合による生物学の連携、協調活動

国際生物学賞、国際生物学オリンピックの推進を図り、支援を行った。また、生物科学学会連合活動を生物系学会と連携して推進した。

（公益1）

8. 役員及び委員会活動

広報委員会

- 1) 学会ホームページの情報更新・管理維持を行った。
- 2) 会員へのダイレクトメール情報に基づき、公募・研究情報・研究集会情報を学会ホームページに掲載し、月1回のメールマガジン配信を会員向けに行った。
- 3) 2022年度日本動物学会賞、奨励賞、成茂動物科学振興賞、動物学教育賞、女性研究者奨励OM賞、茗原眞路子研究奨励助成の受賞者決定情報（選考理由・要旨を含む）を学会ホームページに掲載した。
- 4) 新会長挨拶文を学会ホームページに掲載した。
- 5) 茗原眞路子研究奨励助成の要旨および報告書を学会ホームページに掲載した。
- 6) 2023年度日本動物学会賞、奨励賞、成茂動物科学振興賞、動物学教育賞、女性研究者奨励OM賞、川口賞、茗原眞路子研究奨励助成の募集情報を学会ホームページに掲載した。
- 7) 書評5件を学会ホームページに掲載した。

出版・図書委員会

Springer Series “Diversity and Commonality in Animals”の Vol 4. Animal Behaviors（仮題）、Vol 5. Endocrine Systems in Animals（仮題）の出版企画を具体化し、以降の Volumes について委員会で検討を進め、学会員に企画を募集する計画にある。

将来計画委員会

2023年1月30日にキャリアパス小委員会の引き継ぎが行われた。

- ・西野敦雄前委員長より、後藤慎介委員への引き継ぎが Zoom で行われた。

2023年1月2月にメール審議が行われた。

- ・田中将来計画委員会委員長、黒岩麻人男女共同参画委員会委員長、後藤慎介将来計画・キャリアパス小委員会委員と審議し、佐倉緑氏が男女共同参画委員会・キャリアパス小委員会委員として選出された。

2023年2月16日にキャリアパス小委員会が開催された。

- ・後藤慎介氏が委員長、佐倉緑氏が副委員長とされ、事業を開始した。
- ・山形大会では、男女共同参画のランチョンセミナーのキャリアパス部門について、キャリアパス小委員会が関与する形をとることが話し合われた。本件は、2023年3月3日に田中、黒岩両委員長に提案され、承認された。

2023年3月にメール審議が行われた

- ・西野前キャリアパス小委員会委員、後藤現キャリアパス小委員会委員とキャリアパス小委員会の体制についての議論を行った。その結果、少なくとも本年度は、「男女共同参画ランチョンセミナーでの協力（話題提供者の選定）」を活動内容として進めることとなった。

国際交流委員会

下記の通り、国際交流委員会を行った。

【国際交流委員会 2022/9/7】

日時：9月7日（水）13：00～14：00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス3号館（608）

出席者：鈴木委員（委員長） 和多委員（北海道支部） 堀江委員（近畿支部） 坂本委員（中国四国支部）

オンライン参加：藍委員（九州支部） 日下部委員（中部支部）

オブザーバー参加：三浦先生（次期委員長）

欠席：熊野委員（東北支部） 谷口委員（関東支部）

*対面で参加していただいた委員及びオンラインで参加していただいた委員の先生方の自己紹介を行った。

*今年度の活動報告として、9月10日に開催予定の国際交流シンポジウム、9月17日に開催予定

の国際交流セミナーの説明を、それぞれ藍委員、日下部委員から行った。

* 来年度の活動計画として、次期委員長の三浦先生から、国際交流委員にメールを送り、締め切りの期日を決めて、国際交流シンポジウム及びセミナーの企画を問い合わせる予定。今年中に企画者と企画のテーマを決める予定。本大会のシンポジウム・関連集会の募集と同じ日程で進めていく予定。

【国際交流委員会 2022/11/22】

日時：2022年11月22日（水）14：00～15:10

場所：オンライン（zoom 開催）

出席者：和多和宏（北海道）熊野岳（東北）谷口俊介（関東）日下部誠（中部）堀江健生（近畿）
坂本浩隆（中国・四国）藍浩之（九州）

欠席：なし

1．委員の自己紹介

2．今年度の早稲田大会での国際シンポジウム、動物学国際交流セミナーについて

(ア) 国際シンポジウム報告（藍先生）

- ハイブリッドで開催（コロナ禍での企画）
- 参加者 50名ほど（オンライン含む、ほとんど対面）

(イ) 国際交流ワークショップ報告（日下部先生）

- 全てオンラインで開催
- ポスター発表 20件
- 参加学生からは好評（外国人研究者との直接のディスカッションが新鮮）

(ウ) 企画の経緯

- 1月あたりに具体案（日下部先生からの提案）
- 3月末に企画申し込み締切（この時期までに具体案が決まっていけない）

3．各支部からの企画案報告

(ア) 各支部とも具体的な案は上がらず。

4．その他意見交換

(ア) 国際シンポと交流セミナーの開催について

- 経緯について（臨海でやることが多い）
- 泊まりがけでの開催 濃密な交流
- 臨海で交流セミナーをやるのは良いが、分野の偏りなど懸念される。
- 海外講演者からの一方通行でなく、相互に交流できる機会の提供。
- 国際シンポと交流セミナーは必ずしもカップルしなくてもよいのではないか。
- カップルすると企画が大変。シンポのみなら比較的容易に企画可。

(イ) まずは国際シンポの企画を考える。交流セミナーはその後で考える。

(ウ)国際シンポについて、来年度の山形大会でのプログラムにどう組み込むか

- 一般講演やポスター発表とは重ならないように。
- 他のシンポと重なるのは問題ないのではないか。
- 大会運営委員会との調整（熊野先生、三浦）
- オンラインを視野に入れるかでプログラム編成変わる（オンラインで海外からだ朝イチにならざるをえない）

- 次回委員会の開催、12月末～1月初旬に開催。
- その時まで各支部からの企画案・意見をまた持ち寄る。
- 12月中旬に日程調整連絡（三浦から）

【2023年3月1日 国際交流委員会の開催】

15時より zoomにて開催

出席者：和多和宏（北海道）、谷口俊介（関東）、日下部誠（中部）、坂本浩隆（中国・四国）、藍浩之（九州）

欠席：堀江健生（近畿）、熊野岳（東北）

- 山形大会の国際シンポジウムの応募・提案状況についての確認。
 - 各地区とも提案・応募は1件もなかった。
- 提案がなかった場合の対応について議論された。
 - 次回の山形大会の国内シンポジウムとして応募があったシンポから、国際シンポを募る。
 - ◇ 外国人の招待講演者の旅費は出すので、国際シンポとしないかと提案。
 - ◇ 山形大会のプログラム委員にもなっている熊野先生（東北大）に各シンポジウムオーガナイザーへの打診を依頼。
 - なければ次回大会では国際シンポはなし（無理してやる必要があるか？）
 - ◇ 次回（長崎大会）以降は各支部の先生方からオーガナイザー候補を出してもらおう。（次回以降を見据えて）
 - ◇ ピンポイントで個人的に打診することが必要。
 -
 - 国際シンポ案がない場合には、国際交流委員会としての働きかけとして、学会員に国際交流セミナー（開催時期等は大会にとらわれない）の呼びかけをしていく。

【2023年4月12日】

- 山形大会プログラム委員の熊野先生（東北大）より
 - 「動物学会山形大会のシンポジウムの企画申し込みが先月末に締め切られ、申し込みされた15の企画者の方々に国際交流シンポジウムとしての開催の可能性を打診してきましたが、期日までに手を上げてくださる方はおらず、従って、今年度の国際シンポの開催は見送らざるを得ないかと思えます。」との連絡。
 - 数ヶ月にわたり先生方にもご尽力頂いたにもかかわらず、ひとりとして手を上げてく

ださる方はいらっしゃいませんでしたので、大変に遺憾ではありますが、山形大会の国際シンポジウムはなしという結論に至った。

男女共同参画委員会

1. 2022年8月7,8日に開催された夏学(女子中高生夏の学校)オンライン2022のポスター・キャリア相談に協力した。
2. 第93回早稲田大会にて、第22回男女共同参画懇談会:「ワーク・ライフ・バランスを考える～研究を続けるために～」を実施した。ランチョンセミナーとグループディスカッションを対面にて行った。
3. 男女共同参画学協会連絡会による「加盟学会の活動推移調査」に協力した。
4. 第20回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(2022年10月8日(土)東京大学浅野キャンパス武田先端知ビル武田ホール&オンライン開催)に参加し、活動報告のポスター発表を行うとともに、シンポジウム資料集に活動報告書を掲載した。学協会連絡会の幹事学会の引継ぎが行われ、第20期の幹事は日本生態学会が担当となった。
5. 男女共同参画学協会連絡会第21期第1回定時総会・運営委員会(2022年12月14日(水)Web会議)に参加した。
6. 第94回日本動物学会山形大会において、第23回男女共同参画懇談会「ワーク・ライフ・バランスを考える～研究と〇〇の両輪の回し方～」を、キャリアパス小委員会と合同企画開催することになり、準備を進めている。
7. 男女共同参画学協会連絡会(以下、学協会連絡会)第21期第2回運営委員会(2023年3月27日(月)web会議)に参加した。
8. 学協会連絡会が実施している5年ごとの大規模アンケートの結果から明らかになった。任期付き雇用の研究者および失職した研究者の実態について、2022年3月29日から4月30日までの間、雇用状況に焦点を当てた「若手雇用問題アンケート」が新たに実施された。任期付き職、非常勤職を経験したことのある研究者や現在無職の研究者を対象に、計4,918名から回答が寄せられ、特に自由記述回答からは、研究者の雇用問題への関心の高さと、状況の深刻さが再確認された。そこで、男女両方の任期付き職の研究者の待遇改善にむけて、「科学技術系分野における任期付き研究者の雇用問題解決に向けての要望書案」を、内閣総理大臣および各省の担当大臣等、関係各位に提出する案について、正規加盟学協会に審議依頼があった。動物学会では、メールによる理事の承認を経て、要望書の提出に賛同した。また、理事から寄せられた意見については、学協会連絡会の若手雇用問題WGと提言・要望書WGに伝えた。

教育委員会

新型コロナウイルスの影響が引き続き存在するものの、その対応方法の確立や政府による制限の緩和に伴い、各支部大会等の開催様式も以前のスタイルに戻りつつある。そのような中、本年度活動計画の中心であった「各支部の支部大会を中心に高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動を実施する」ことに関して、各支部の活動を以下のように行なった。

<日本動物学会第93回大会 早稲田大会>

- 公開講演会「環境と教育の未来～動物学からのメッセージ」
- 高校生によるポスター発表
- 動物学ひろば

日時：2022年9月10日（土）

場所：早稲田大学

内容：71演題もの高校生ポスター発表があり、会場も熱気に包まれた。多くの発表が独自のアイデアに基づいて詳細な解析を進めたものであり、聴衆の会員との議論も白熱したものであった。動物学ひろばには11件の展示があり、子供も含む多くの参加で賑わった。

<北海道支部>

- 2022年度日本動物学会北海道支部第67回大会特別発表（高校生による口頭発表）
日時：3月18日（土）
場所：旭川市公民館木楽輪（対面）
内容：高校生による3演題の口頭発表があった。
- 2022年度日本動物学会北海道支部第67回大会教育講演
日時：3月18日（土）
場所：旭川市公民館木楽輪（対面）
内容：「動物実験に関する法律・指針について考える」

<東北支部>

- 2022年度日本動物学会東北支部大会 中学生・高校生による科学研究発表
日時：7月23日（土）～7月24日（日）
場所：弘前大学農学生命科学部（対面）
内容：全て口頭発表にて、一般演題（18演題）のほか、高校生による科学研究発表（8演題）があった。また、第9回動物学フォトコンテスト（21作品応募）を例年通り行った。
- 2022年度日本動物学会東北支部 親子で楽しむ動物学20
「研究動物たちと触れ合おう！！」
日時：8月6日（日）
場所：弘前大学農学生命科学部
内容：3展示、クイズ、
カエルとイモリを見よう
いろいろなプラナリアを見よう
ホヤが子供から大人になるまでの体の変化を観察しよう
対象：小学生～中学生と保護者、高校生、一般の方も参加可。
- 2023年3月31日 動物学会東北支部・支部だより No.72（2023年度支部大会案内、フォトコ

ンテスト案内)を配信

◇ 日本動物学会・2023 年度東北支部大会の案内

会 期：7月29日(土)13:00~17:00(一般発表、高校生による発表)

7月30日(日)9:00~12:00(一般発表、高校生による発表及び総会)

会 場：岩手大学教育学部北桐ホール(ほくとうホール)

(*) 支部長主導で高校生発表における研究倫理等に関する注意喚起の文書が作成された。

◇ 第10回記念 2023年度動物学フォトコンテスト~作品募集~締め切り 2023年6月19日

< 関東支部 >

● オンライン一般講演会「寄生・共生の動物学」

日時：2022年8月20日(土)開催

場所：オンライン

ウェビナーへの登録者は229名。出入りがあるため、実参加人数の把握は不可能であったが、瞬間的に最も参加者が多かった時間帯では143が出席。

● 2022年度日本動物学会関東支部第75回大会 高校生によるポスター発表

日時：2023年3月18日(土)

場所：明治大学(対面)

内容：高校生による25演題の研究発表があった。

● 2022年度日本動物学会関東支部第75回大会 公開シンポジウム

日時：2023年3月18日(土)

場所：明治大学(対面)

内容：「ゲノム編集10年目の動物学」

< 中部支部 >

● 令和4年度 日本動物学会中部支部大会

日 時：2022年11月26日(土)午後~11月27日(日)

11月27日(日)午後は公開シンポジウムの予定

会 場：信州大学松本キャンパス(公開シンポジウムについては、オンライン配信によるハイブリッド開催を予定)

大会内容：一般発表(学生発表含む、対面のみ)・高校生発表(口頭発表のみオンライン可、ポスターは対面のみ)

中部支部公開シンポジウム(ハイブリッド開催)

参加費：1,000円程度(学部生・高校生の参加費は無料)

< 近畿支部 >

● 2022年度 日本動物学会近畿支部主催 高校生研究発表会

日時：2022年11月12日（土）開催
場所：zoomによるオンライン開催
内容：高校生研究発表会および授賞式を実施
（9演題）

- 2023年度 日本動物学会近畿支部公開講演会
日時：2023年5月20日（土）対面
会場：甲南大学岡本キャンパス北校舎7号館1階 SaLaCo Center
講師：武田洋幸先生（京都産業大学生命科学部）
演題：『魚を用いて動物の発生のしくみを探る - かたち作りからゲノム、エピゲノムまで』

< 中四国支部 >

- 中国四国地区生物系三学会合同大会（日本動物学会中国四国支部大会） 高校生ポスター発表
日時：2023年5月1日～14日：LINC Biz をもちいたオンラインチャットによる質疑応答
2023年5月14日 14:44 ～ 15:29：2分間のフラッシュトーク
高校生ポスター37演題（動物分野12題）の発表があり、審査の結果、最優秀賞1題、優秀賞2題、奨励賞1題を授与した。
- 2023年度 中国四国地区生物系三学会合同大会 公開シンポジウム（オンライン開催）
日時：2023年5月13日 16:30～18:30
場所：オンライン
内容：「ゲノム編集技術が切り拓く未来」

< 九州支部 >

- 2022年度・動物・植物・生態 三学会合同鹿児島例会 高校生による科学研究発表ほか
日時：2022年12月10日（土）
場所：鹿児島大学理学部（対面）
内容：高校生による科学研究発表（3演題）と一般演題（1演題）があった。
- 2023年度日本動物学会・日本生態学会・日本植物学会合同例会 公開シンポジウム
日時：2023年5月20日（土）
場所：琉球大学理系複合棟102
内容：～ 沖縄への自然史博物館設立活動の過去、現在、未来～
- 2023年度日本動物学会・日本生態学会・日本植物学会三学会合同熊本大会
日時：2023年5月27日（土）、28日（日）
場所：熊本大学黒髪南キャンパス
内容：高校生によるポスター発表が26演題あった。

IT 委員会

1. 第 93 回早稲田大会の演題閲覧システムについて、業者並びに早稲田大会実行委員会と連携しながら整備を行い、公開を行った。
2. 第 93 回早稲田大会の際に IT 委員会を対面で実施し、新理事としての顔合わせを行うのと同時に、前任の日下部理事・阿部理事より業務引継ぎを行った。(9/7)
3. 第 93 回早稲田大会の実施運営に関するアンケートを、早稲田大会実行委員会と共同で行った。会員・非会員を含め 300 名の回答が得られ、今回使用した Zoom の使い勝手やオンライン大会について意見を募ることが出来た。

発表ツールとしての Zoom の使用は、使い勝手については賛否が分かれたものの、利用はやむを得ないとする意見が多く、オンライン配信を見据えて今後も利用していくことを検討することになった。

また、今回の対面での開催は非常に好意的に受け止められているものの、オンライン配信の期待も相変わらず大きく、今後の検討課題とすることとした。
4. 第 94 回山形大会の参加・演題登録システムについて、山形大会実行委員会と連携しながら整備を行い、公開を行った。公開後のサイトの管理は大会実行委員会に依頼した上で、システムを監理し、業者による修正が必要な案件については直接対応した。
5. 第 94 回山形大会用の web サイトについて、山形大会実行委員会へ管理運用の引継ぎを行った。
6. 動物学会 web サイトのシステム管理を行った。
7. 会長の諮問により、演題登録・検索システム及び参加登録システムの改善案を取りまとめ、最終的に演題登録・検索システムの一部改修を業者に依頼した。

ZDW 委員会

- 1) ZDW について不具合の点検と改善を進め、システムを担当するダイナックス社と協議して解決にあたった。
- 2) Zoological Science、動物学雑誌、動物学彙報の論文を巻号年に沿って収録している ZDW の "Journals" について、ページデザインを策定し、改修を行った。さらに改修に伴って発生した不具合を点検した。改修及び不具合の修正対応はダイナックス社が担当した。なお、これにかかる費用は、理事会の承認を得て学会が負担した。以上をもって、"Journals" を公式公開となった。
- 3) "Journals" の公式公開を受けて、ZDW の「ZDW でできること」に収録する「ZooDiversity Web 利用マニュアル」の改訂をおこなった。

4) 2024年3月に現在受けている科研費が終了することから、以降のZDWの運営(維持・更新)費用についてダイナックス社と協議し、委員会で検討を行った。また、現在嶋田会員に委託しているデータベース作成の単価の見直しについても検討を行った。

寄付委員会

1) 2022年度は179件、総額1,513,762円のご寄付を頂き、年間100件以上という目標件数を達成した。

2) 2022年6月28日~7月14日(17日間)の期間において、中部支部によるクラウドファンディングを実施し、30件(計90,000円)のご寄付を頂いた。

3) 中部支部によるクラウドファンディングの実施報告について寄付委員会で情報を共有した。また、2023年度は7月以降に20件の寄付募集を実施することを報告した。

4) 学会HP寄付サイトの改修のため、ファンドレイジングプラットフォーム(Syncable)への登録を行い、事務局と共に寄付募集ページの作製を行った。

会長

- ・稲葉一男前会長より、会長の職務引き継ぎをメールにて行なった(第1回:9月20日、第2回:9月30日)。
- ・賞担当理事及び学会本部役員とともに、東レ科学振興会への推薦、井上科学財団の学会推薦審査を行なった。
- ・新理事と新監事に挨拶をメールにて行なった。
- ・新理事にメール連絡し、支部長、各委員会委員長の引き継ぎを促した。
- ・本部役員による会合をズームにて開催した。
- ・生物科学連合の次期会長候補の推薦を理事会に募った。
- ・日本生物科学連合からの、「日本化学連合よる内閣府への提言」に連名での参画依頼について、理事会でメール審議を行ない、可とすることとした。
- ・日本生物科学連合次期代表選挙の投票について、理事会でメール審議し、投票内容を決定した。
- ・茗原眞路子研究奨励助成、OM賞、成茂動物科学振興基金に関連し、寄付者に学会の近況報告と会長交代の挨拶を行なった。
- ・本部役員と事務局による会合をズームにて開催した。
- ・会長と事務局との会合を対面にて開催した。
- ・動物学会代表として日本生物科学連合定例会議に出席した。
- ・「生命科学クロスオーバー研究所」設立についてサポートレターを生物科学連合から出すことについて理事会にてメール審議し、可とした。
- ・本部役員、事務局による会合を開催した。
- ・2022年第4回理事会を開催した。

- ・日本学術会議に連携会員候補者および会員候補者の推薦に関して、本部役員でメール会議を行い、候補者を挙げ、候補者本人の意思を確認した後に、学術会議に推薦した。
- ・日本学術会議に学術集会デジタルコンテンツのアーカイブ化に関する問い合わせについて、「現在アーカイブ化なし」と回答した。
- ・賞担当理事及び学会本部役員とともに、山田科学振興財団への学会推薦の審査を行い、候補者を決定し、助成推薦を行なった。
- ・OM 賞選考委員について、副会長と相談し原案を作成し、本部役員及び賞担当理事と相談し、決定した。
- ・山形大会の学生会員、学生参加者の参加費について、ズームにて、山形大会渡辺大会長と、事務局を交えて、意見交換を行なった。
- ・茗原眞路子研究奨励助成金の選考委員候補者の原案を作成し、本部役員及び賞担当理事と相談し、決定した。
- ・中辻創智社研究費助成選考委員への委員推薦を行なった。
- ・中部支部からのクラウドファンディングに関する相談について、本部役員で zoom 会議、メール会議を複数回開催した。また、寄附担当理事とメールでの意見交換を行い、問題点を検討した。
- ・中部支部長、賞担当理事と zoom にて会議を行い、プレパラートを返礼品とする中部支部のクラウドファンディングについて意見交換し、今後の進め方について取り決めした。
- ・山形大会で開催する本部企画シンポジウムの内容と講演者を、2週間程度かけてメールで意見交換し、決定した。
- ・学術著作権協会事務局の新規事業(学会の著作物の代理販売)に関するアンケート回答について、本部役員でメール会議を開催し、新規事業への参入は引き続き検討することとした。
- ・事務局の雇用や給与について、本部役員でメール会議を開催した。
- ・株式会社 成茂科学器械研究所を訪問し、社長と動物学会の事業内容や学会大会運営に関して意見交換を行った。
- ・中部支部のクラウドファンディングについての本部からの中部への支援内容について、中部支部長の同意のもと、取り決めを行なった。
- ・2022年第6回理事会を6月17日に開催した。

副会長

1. 本部役員間のミーティングならびに事務局のオンライン打ち合わせに参加し、さまざまな引継ぎ事項を把握するとともに、解決すべき所掌事項に対して意見を出した。
2. 財団からの選考委員候補者の推薦依頼に対し、候補者を検討した。
3. その他、会長、会計、庶務、ならびに各委員会の職務を補佐した。

庶務

会長、副会長、会計及び事務局長と連携を図りながら動物学会の運営の補佐を行った。2022年の早稲田大会について、学会の運営のサポートや、総会・受賞者講演の運営など、本部としての職務を行った。2023年の山形大会の開催について、適宜進捗状況を把握している。

2022年度第1回～第5回理事会を行うにあたり、議事次第のとりまとめおよび議事録の作成を行った。

会計

- (1) 会計担当として、毎月の収支計算書を確認するとともに、職員の給与額や賞与額の決定、各種委員会等で必要な経費の支出について、承認を行なった。
- (2) 2023年6月開催の第5回理事会(オンライン)において、2023年度予算案を提案し、承認を得た。同様に、学会誌の未収金対応に関する提案について説明を行い、承認を得た。
- (3) 本部役員として、助成金の学会推薦審査、事務局長交代に伴う各種調整、山形大会の本部企画提案、支部からの相談対応等、様々な学会運営に関わる重要案件に対して、会長、副会長、庶務担当理事と共に対応した。

大会引継ぎ担当

- 1) 第93回早稲田大会(2022年)の資料を第94回山形大会(2023年)に引き継いだ。
- 2) 山形大会のハイブリッド化について議論した。

9. 支部活動

北海道支部

以下のように、第67回北海道支部大会(総会含む)、2回の支部役員会(メール会議)、6回の支部講演会を開催した。

1. 第67回北海道支部大会

2023年3月18日(土)に、旭川市公民館木楽輪において対面式にて開催した。参加登録者は58名、このうち一般・PD・大学院学生・学部学生の参加者が25名、高等学校(計4校)からの参加者が引率教員を含み33名。PD・大学院学生・学部学生の発表者のうち2名に優秀発表賞、1名に最優秀発表賞を授与した。高等学校からの発表グループ全員に、特別優秀発表賞を授与した。なお、主なプログラムは以下の通り。

学部学生・大学院生・PDによる口頭発表 12題

高校生による特別発表(口頭発表) 3題

特別発表した高校生の所属校(全2校)は、北海道旭川西高等学校および北海道旭川北高等学校。

特別講演会 3題

伊藤拓哉(旭川医科大学・教育研究推進センター)「動物実験に関する法律・指針について考える」

横井佐織(北海道大学・大学院薬学研究院)「メダカの親密度依存の配偶者選択とオキシトシン」

富菜雄介（北海道大学・電子科学研究所）「神経生物学における高速ライトシート顕微鏡の応用展開: in vivo 四次元神経活動イメージング」

総会

2. 支部役員会

・第1回支部役員会

2022年11月22日（火）メール会議

報告内容：第67回日本動物学会北海道支部大会の準備状況の報告、および、支部講演会実施の依頼。

・第2回支部委員会

2023年2月23日（木）メール会議

報告内容：第67回日本動物学会北海道支部大会の準備状況および今後の本大会について。

3. 支部講演会の開催について

第589回支部講演会

- ・日時：2022年9月27日（火）17:00～18:00
- ・場所：北海道大学 理学部5号館8階 5-813室
- ・演題：ヨーロッパにおけるキンイロジャッカル¹の分布拡大と生態的特徴
- ・演者：角田裕志 先生（埼玉県環境科学国際センター）

第590回支部講演会

- ・日時：2022年8月31日（水）15:00～16:30
- ・場所：北海道大学 理学部5号館8階 5-813室
- ・演題：アフリカツメガエルの卵成熟におけるATP代謝と受精時のシグナル伝達
- ・演者：井尻貴之 先生（摂南大学・理工学部生命科学科）

第591回支部講演会

- ・日時：2022年9月15日（木）17:00～18:30
- ・場所：北海道大学 理学部5号館8階 5-813室
- ・演題：マウス有毛皮膚の触感覚神経の特性とPiezo2チャンネルの役割
- ・演者：馬場欣哉 先生（Univ. of California, Berkeley）

第592回支部講演会

- ・日時：2022年9月22日（木）17:00～18:30
- ・場所：北海道大学 理学部5号館8階 5-813室
- ・演題：弱電気魚の感覚運動統合回路における進化と可塑性
- ・演者：福富又三郎 先生（Department of Biology, Washington University in St. Louis）

第593回支部講演会

- ・日時：2023年6月13日（火）17:00～
- ・場所：北海道大学 理学部5号館8階 5-813室
- ・演題：Uncovering the neural circuits for social bonding in songbirds
- ・演者：Sarah C. Woolley 先生（Department of Biology, McGill University）

第 594 回支部講演会

- ・日時：2023年6月21日（水）17:30～
- ・場所：北海道大学 理学部5号館8階 5-813室
- ・演題：Vocal motor control in canary song
- ・演者：Tim Gardner 先生（DeArmond Chair in Neural Engineering, Knight Campus, University of Oregon）

東北支部

1) フォトコンテスト

締切日：2022 年 6 月 25 日（土）（7 月に入ってから審査）

応募数：21 作品

受賞：最優秀賞 1 作品、優秀賞 3 作品

2) 東北支部役員会

開催日：2022 年 7 月 23 日（土） 弘前大学農学生命科学部（対面）

< 議題 >

- ・理事会報告
- ・フォトコンテスト審査結果報告
- ・令和 3 年度決算報告
- ・令和 4 年度予算計画
- ・次期支部大会開催地について
- ・支部役員（秋田地区支部委員）の委嘱について
- ・フォトコンテスト開催について
- ・2023 年度本大会（山形大会）の開催について

3) 2022 年度東北支部大会

開催日：2022 年 7 月 23 日（土）～7 月 24 日（日） 弘前大学農学生命科学部（対面）

演題数：口頭 18 題

参加者数：59 名（うち、動物学会会員 22 名）

4) 高校生による科学研究発表

開催日：2022 年 7 月 23 日（土） 弘前大学農学生命科学部（対面）

演題数：口頭 8 題

参加校数：3校

5) 東北支部総会

開催日：2022年7月24日(日) 弘前大学農学生命科学部(対面)

- ・支部長挨拶、支部大会大会長挨拶

< 議題 >

- ・理事会報告
- ・会計報告
- ・フォトコンテスト審査結果
- ・次期支部大会開催地について

6) 親子で楽しむ動物学 20 ~ 研究動物たちと触れ合おう!! ~

開催日：2022年8月6日(土) 弘前大学農学生命科学部(対面)

- ・カエルとイモリを見よう
- ・いろいろなプラナリアを見よう
- ・ホヤが子供から大人になるまでの体の変化を観察しよう

参加者数：14名

関東支部

1) 支部主催公開講演会の実施

日時：2022年8月20日(土)13:30 - 16:00

会場：オンライン Zoom

内容：テーマ「寄生・共生の動物学」

「日本のアリと共生する昆虫」 丸山宗利氏(九州大学)

「最強生物クマムシとその仲間たち」 田中冴氏(自然科学研究機構)

「クモの寄生バチ、クモヒメバチのユニークな戦略」 高須賀恵三氏(慶応義塾大学)

参加登録者数：227名

2) 第93回日本動物学会(早稲田大会)の開催支援

3) 支部大会・支部総会の実施

【日時】 2023年3月18日(土)

【会場】 明治大学生田キャンパス(戸村秀明 大会長(明治大学))

【プログラム】 公開シンポジウム「ゲノム編集10年目の動物学」

口頭発表(一般発表)56演題、中高校生ポスター発表25演題

支部総会

登録者数209名

教員・研究者など44名、大学生・大学院生100名、高校生・中学生・高校教員65名

4) 支部委員会の開催

第1回 2022年10月7日 14:00-15:20 (オンライン)

第2回 2022年12月9日 17:00-18:30 (オンライン)

第3回 2023年3月2日 18:00-19:55 (オンライン)

中部支部

1) 令和4年度日本動物学会中部支部大会を開催した。詳細を以下に示す。

日時: 2022年11月26日(土)午後, 27日(日)

会場: 信州大学・理学部(松本キャンパス:長野県松本市旭3-1-1)

(<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/others/access.html>)

参加費: 1,000円

(高校生・大学生・大学院生等の学生参加費無料;

公開シンポジウムだけの参加は無料)

大会内容: 一般発表(学生発表含む)・高校生発表・中部支部シンポジウム

高校生口頭発表13演題、一般口頭発表16演題

高校生ポスター発表6題、学生のポスター発表16題、

参加者は対面115名、オンライン参加45名、合計160名。

シンポジウム

「日本列島の多様な動物たち:高山から深海まで」

11月27日(日)13:00-15:30 信州大学理学部1番教室

企画・司会:東城 幸治(信州大学 理学部)・宮崎 淳一(山梨大学 教育学部)

S-1. 笠原 里恵(信州大学 理学部)

「日本に生息するライチョウの遺伝的分化」

S-2. 鈴木 智也(京都大学大学院 地球環境学堂)

「山岳棲昆虫スカシシリアゲモドキにおける高山型進化プロセス」

S-3. 竹中 將起(信州大学 理学部)

「厳冬域・上高地におけるニホンザルの生存戦略

-泳ぐ魚のハンティングの観察事例-

(休憩)

S-4. 藤原 義弘(海洋研究開発機構 地球環境部門

海洋生物環境影響研究センター)

「深海のトップ・プレデターを探る」

S-5. 波々伯部 夏美(東京大学大学院 理学系研究科)

「深海に潜むヒモムシの多様性と適応進化」

2) 中部支部主催のクラウドファンディング

動物の組織などのプレパートを返礼品としたクラウドファンディング(3000円、30件)を実施した。児童生徒、高校生、大学生の教育活動の支援を目的に実施した。7月20日に締め切り、返礼品を夏休み前に送付した。

企画の内容：寄付委員、教育委員、中部支部長が企画を担当。夏休みの課題研究のサポートになる研究課題を提供して、その課題のヒントとなるプレパートを返礼品にした企画を実施した。

近畿支部

1. 支部役員の選出

- ・2022年9月の理事・支部長の交代を受け、新たに支部役員の選出を行った。庶務幹事と会計幹事は以下の通りお願いした。

庶務：堀江健生(大阪大・大学院生命機能研究科)

会計：佐倉緑(神戸大・大学院理学研究科)

2. 高校生研究発表会の開催

日時：2022年11月12日(土)13:30~17:00(Zoomによるオンライン開催)

- ・発表形式：1演題につき15分(発表動画の上映10分、質疑応答5分)

発表資料：2種類の発表ファイル

パワーポイント等で作成した発表スライド(PDF形式)

ナレーション付きの動画ファイル(MP4形式、10分)

事前公開：11月9日~11日、Slack上で参加者に公開

- ・表彰：参加者全員の投票により最優秀賞1件、優秀賞2件を選考、表彰した。
- ・発表件数：11件

3. 公開講演会の開催

2023年春の公開講演会(講演会と高校生発表会の同時開催)

日時：2023年5月20日(土)15:00~16:30

場所：甲南大学岡本キャンパス北校舎7号館1階 SaLaCo Center

講師：武田 洋幸 先生(京都産業大学生命科学部)

『魚を用いて動物の発生のしくみを探る - かたち作りからゲノム、エピゲノムまで』

参加人数：40人

4. 支部委員会の開催

- ・第一回支部委員会：2022年11月12日(土) 11:00~12:00(オンライン会議)
- ・第二回支部委員会：2023年5月20日(土) 13:00~14:30(甲南大学岡本キャンパス)

中国四国支部

A. 支部の活動

(1) 2022年9月の理事・支部長の交代を受け、新たに支部役員を選出を行った。庶務幹事と会計幹事は以下の通りお願いした。

庶務：小林勇喜（広島大・院統合生命）

会計：有本飛鳥（広島大・院統合生命、臨海）

(2) 第74回支部大会（徳島大会）を開催した（中国四国植物学会、日本生態学会中国四国地区会と共同で中国四国地区生物系三学会合同大会として開催した）。

日時：2023年5月13日（土）、14日（日）

会場：オンライン開催

実施内容：

(a) 支部役員会（Microsoft Teams）

(b) 一般口頭発表：20 演題（Microsoft Teams）

(c) 高校生発表（動物学分野）：12 演題（LincBiz および Zoom）

(d) 公開シンポジウム「ゲノム編集技術が切り拓く未来」：3 演題（Zoom）

(e) 総会（Microsoft Teams）

なお若手優秀発表賞として13演題から以下の2名を選び、総会で表彰した。

・野沢優里 会員（岡山大・院環境生命自然科学）

「ニワトリの羽伸長におけるプロラクチンの作用機序」

・山本咲哉 会員（岡山大・院自然科学）

「アホロートル四肢再生における位置情報の統合機構の解析」

また2024年5月に開催する予定の支部大会の準備状況について岡山県委員の佐藤伸会員から説明を受けた。

(3) 中国四国地区生物系三学会合同大会の今後の運営方針について中国四国植物学会、日本生態学会中国四国地区会と話し合いを行った。

(4) 2025年度中国四国地区生物系三学会合同大会・支部大会の開催地を愛媛県とすることについて愛媛県委員の内諾を得た。

(5) 2026年度中国四国地区生物系三学会合同大会・支部大会の開催候補地の選定を進めた。

B. 各県の活動

(1) 山口県

名称：山口大学理学部サイエンスワールド2022

日時：2022年11月13日（日）

場所：山口大学吉田キャンパス

参加者：200名（コロナ対策の為予約制）

(2) 岡山県

名称：岡山県例会

日時：2022年12月2日 16:00～17:30

場所：オンライン開催

内容：セミナー形式（根本理子 岡山大学農学部准教授）

参加者：約25名

（3）高知県

名称：土佐生物学会

日時：2022年12月10日 9:30～14:30

場所：高知大学理工学部

内容：研究発表（口頭発表10題，ポスター4題）

（4）広島県

名称：令和4年度広島県例会

日時：2023年3月7日 13:00～16:00

場所：広島大学理学部大会議室

内容：ポスター発表22題

参加者：49名

備考：ポスター発表22題のうち7題は大学院生、10題は学部生(2名の3年生を含む)の発表であり、若い世代の参加が目立った。

九州支部

1) 三学会合同鹿児島例会

日時：2022年7月16日（土）14:00～15:00

場所：鹿児島大学理学部2号館2階220講義室、オンライン配信（Zoom）

演題と演者（敬称略）：

1. 鹿児島県始良市の思川におけるゴカイ科多毛類の分布と生殖遊泳
佐藤正典（鹿児島大学名誉教授）・浜本麦（くすの木自然館）

2) 三学会合同宮崎例会

日時：2022年11月6日（日）13:00～15:00

場所：宮崎大学農学部講義棟 L102教室、オンライン配信（Zoom）

演題と演者（敬称略）：

1. 動物の化学感覚受容体遺伝子の進化
新村 芳人（宮崎大学農学部獣医学科）
2. 日向灘の鯨類/集団座礁個体のDNA解析から迫る鯨類の社会構造の解明
西田 伸（宮崎大学教育学部）

3) 三学会合同佐賀例会

日時：2022年11月12日(土) 13:00~17:00

会場：佐賀大学農学部1号館2階第5講義室

演題と演者(敬称略):

1. ヒメセスジハネカクシ属2種的生活環、行動、形態変異
奥園 元晴(佐賀大学大学院農学研究科)
2. ミヤコグサ共生初期変異体 crinkle の機能解析
下村 彩(佐賀大学農学部)
3. 光合成の目で流氷を見る：人工海氷生成装置を使った海氷微細藻類の光合成応答研究
吉田 和広(佐賀大学農学部)

4) 三学会合同熊本例会

日時：2022年11月12日(土) 13:00~16:00

会場：熊本大学理学部3号館2階 D201号室

演題と演者(敬称略):

1. 現在の水俣湾生態系と生物への水銀蓄積
吉野 健児(環境省・国立水俣病総合研究センター)
2. 液-液相分離が担うオーキシン輸送制御機構
古谷 将彦(熊本大学・国際先端科学技術研究機構)
3. 雄性不妊モデルマウスと酸化ストレス
竹田 直樹(熊本大・生命資源研究・支援センター・疾患モデル)

参加者：27名

5) 三学会合同福岡例会

日時：2022年12月10日(土) 13:00~

会場：九州大学理学部ビッグリーフ202号室

演題と演者(敬称略):

1. 植物のエピジェネティクス制御を介したゲノム多様性獲得メカニズムの探索
佐々木 江理子(九州大学大学院理学研究院)
2. 再現しようとする試みから四肢発生を理解する
熱田 勇士(九州大学大学院理学研究院)
3. 捕食者への警告シグナル「警告臭」ーツチガエルのニオイの事例からー
吉村 友里(九州大学大学院理学研究院)

参加者：27名

6) 三学会合同長崎例会

日時：2022年12月10日(土) 13:00~15:25

会場：長崎大学環境科学部 本館 1階 大会議室

演題と演者（敬称略）：

1. 深海性等脚類オオグソクムシの代謝速度は代謝スケーリング則から外れるのか？
田中 章吾，小野 友梨夏，八木 光晴（長崎大院・水環）
2. チゴガニの各種行動と心拍の関係
金 希美，岡田 二郎（長崎大・環境）
3. ヒジキの卵からの室内種苗生産について
窪田 理沙，桑野 和可（長崎大・水環総合）
4. カニ類における進行方向と形態の関係性の解明
井上 翼，谷口 隼也（長崎大・院・水・環），黄 榮富（国立高雄科技大学），水元 惟暁（OIST），
平井 厚志（すさみ町立エビとカニの水族館），竹下 文雄（北九州市立自然史・歴史博物館），
佐藤 武宏（神奈川県立生命の星・地球博物館），河端 雄毅（長崎大・院・水・環）
5. ロウソクギンポの雄はなぜ干出す巣で卵保護するのか？
川西 翔，菅 向志郎，竹垣 毅（長崎大・院水環）
6. ニホンウナギの環境 DNA 濃度と生息環境の関係
小野 友梨夏（長崎大・水産），平坂 勝也（長崎大・水産），明正 大純（静岡県立大・食品
栄養科学），藤本 真悟（琉球大・熱帯生物圏研究センター），八木 光晴（長崎大・水産）
7. 繁殖期に耕作放棄水田を利用するヒクイナの行動圏
大槻 恒介（長崎大学・院・水環）
8. 都市 農村間の環境勾配におけるツバメの営巣地選択と最適環境の評価
天野 孝保（長崎大・院・水環），山口 典之（長崎大・院・水環）

参加者：19名

7) 三学会合同鹿児島例会

日時：2022年12月10日（土）13：00～15：00

会場：鹿児島大学理学部 220号講義室

演題と演者（敬称略）：

1. ヒマワリの東西とその利点
渡邊秀穂，今村陽平，丸岡武琉，宇都功一郎，乾聡真，原田匠，渋谷怜汰（鹿児島県立加治
木高等学校、顧問：山口武司）
2. 探せ！カブトムシの種を分ける境界線
本田康太，中玉利青，中村結花，岡田紗季，水田菜乃，町田結日那，中山滉晴，清水禪（鹿
児島県立錦江湾高等学校、顧問：小溝克己）
3. なぜ，ギンボシザトウムシはクモの巣に引っかかるのか？
野元颯真，内村燎人，瀬戸山凌汰，塩入晴陽，大川畑星成，味園桃花，浅井雄貴，有川颯一，
吉屋侑真（鹿児島県立錦江湾高等学校、顧問：大迫武治）
4. 植物の多様性はどのように維持されているのか：種内と種間の視点から考える
渡部俊太郎（鹿児島大学理学部）

8) 三学会合同大分例会

2022年12月17日に予定されていた同例会はCOVID-19のため開催中止となった。

9) 熊本大学理学部主催公開実習

高校生向けの同公開実習はCOVID-19のため開催中止となった。

10) 三学会合同沖縄例会

日時：2023年5月20日(土) 16:45~18:20

場所：琉球大学理系複合棟 102

演題と演者(敬称略):

公開シンポジウム ~ 沖縄への自然史博物館設立活動の過去、現在、未来 ~

1. 開会の挨拶・趣旨説明

竹村明洋(琉球大学理学部海洋自然科学科教授)

2. 沖縄生物学会での県立自然史博物館設立活動

当山昌直(前沖縄生物学会会長)

3. 国立沖縄自然史博物館の設立活動

岸本健雄(お茶の水女子大学・客員教授、国立自然史博物館設立準備委員会代表理事)

4. 沖縄に設立をめざす自然史博物館に期待すること

小林峻(琉球大学理学部海洋自然科学科助教)

5. 総合討論

6. 閉会の挨拶

伊澤雅子(沖縄生物学会会長・北九州市立いのちのたび博物館館長)

11) 第75回日本動物学会九州支部大会

(第75回日本動物学会九州支部大会を、九州沖縄植物学会および日本生態学会九州地区会と共催し、三学会合同熊本大会2023として開催)

日時：2023年5月27日(土)~28日(日)

会場：熊本大学黒髪南キャンパス

内容：

一般講演：ポスター発表(一般発表：31演題、高校生発表：26演題)

口頭発表(一般発表：28演題)

特別講演：1演題

参加者：222名(一般43名、学生68名、高校生関係111名)

12) 日本動物学会九州支部委員会

日時：2023年5月19日(金) 13:00~14:00

場所：オンライン開催（ZOOM）

13) 日本動物学会九州支部総会

日時：2023年5月27日(土) 15:45～16:15

場所：熊本大学黒髪南キャンパス A 会場

以上